

市民のウェルビーイング向上に
向けたまちづくりを



日本維新の会

田中 謙二



問 大阪・関西万博開催の機運醸成に向けた市の対応を伺う。
市長 市民の関心高める機会と捉え、引き続き市民に周知。
問 姉妹都市・友好都市の連携拡大に向けた積極的な取組を。
市長 更なる発展に資する観点念頭に他自治体事例を調査研究。
問 戦争資料の保存活用と平和派遣事業の多摩地域の連携は。
市長 次世代継承の取組を推進。多摩地域平和ネットワークで平和文化の振興に向けた取組検討。
問 ふるさと納税の減収影響の周知と体験型商品の拡充策は。
市長 適切な周知検討。体験型の返礼の企画に取り組む。
問 国保財政健全化に向けたたりフィル処方箋周知について伺う。
市長 国提供の情報注視し、調布市医師会等と情報共有を図る。
問 生成AIの具体的な活用とセキュリティ対策について伺う。
市長 文書作成等活用は必須の研修受講でリスク管理に努める。
問 中学校部活動の地域連携・地域移行における課題と「調布モデル」の構築について伺う。
市長 生徒が技術指導を受ける継続的な機会確保が課題。先行自治体事例研究と枠組み検討。
問 水泳環境整備と学校プール活用の今後の在り方は。
市長 プールの在り方を研究。中学生海外派遣事業の予算化に至る経緯と参加希望者の平等性・公平性について伺う。
市長 若い世代に体験機会設けるため実施。誰もが申請できるよう募集要項作成し周知図る。



市長の基本的施策
に対する
質問の要旨

市長の基本的施策
に対する
質問の要旨

質問とは
市長が毎年、第1回定例会で述べる市政経営における施策や予算などの基本的な考えに対し、所属する議員が1人の会派が行う質問のことです。

基本的施策に対する
市政運営を問う



自由民主党

伊藤 学



問 各地の激甚災害を踏まえ、市の防災都市づくりに関する課題認識と取組は。
市長 建築物の耐震化や市街地の不燃化の重要性を再認識。震災に強い安全・安心な都市の実現に向けて、ソフト、ハードの両面から防災都市づくりに取り組む。
問 西調布駅におけるホームドアの設置予定は。
市長 2029年度以降から2030年代前半までに整備予定と京王電鉄が公表。市内未設置駅の整備が早期に図られるよう、今後も強く京王電鉄に求めるとともに、整備に向けた取組を支援。
問 調布駅南北広場の完成に当たり①にぎわいや交流、憩いを実現するためのルール等を市民と共有することが重要。見解は②広場の安全・安心確保のため、防犯カメラの設置を。
市長 ①広場の管理、運用に関する条例制定に向け関係機関と協議②対策を講ずべき場所を総合的に判断し設置。犯罪抑止等での活用見据え導入、整備推進。
問 地域経済の活性化に向け、

当事者の声を聞き当事者目線の
施策が展開される福祉のまちを



生活者ネットワーク

木下 安子



問 子どもが自分たちはまちの宝だと思えるまちにすべき。どのようにつに子どもの意見を聞くのか。
市長 調布っ子すこやかプランに子どもの意見尊重し子育て支援の視点。意見聴取機会を充実。
問 子どもの貧困対策推進法に子どもの貧困の解消と明記。子どもの声を聞き施策に反映を。
市長 学習支援やひとり親家庭に寄り添った支援を実施。思い描く人生歩めるよう支援を充実。
問 不登校児の居場所と学びの選択肢拡充し多様な学びや他者と関わる勇氣に前向きな評価を。
市長 中学生の適応指導教室設置やオンライン活用に取り組む。自宅等での努力への評価は重要。
問 年とともに弱っても安心して暮らせるよう小規模事業者等への支援とヘルパー不足解消を。
市長 6年度市内事業者の介護報酬引き上げ。人材確保やサービスの安定供給等に取り組む。
問 男性介護者は増加しており支援が不可欠。介護サービス開始時にケアラー支援も始める仕組みやケアラーの会への支援を。
市長 ケアラーの自己実現や生活の質の保障、負担軽減の考えの下、支援を実施。ケアラー団体等と連携しサービス拡充図る。
問 気候非常事態宣言発信や気候市民会議設置を。原廃廃止に向けエネルギー自立への取組を。
市長 (仮称)ゼロカーボンシティ調布推進協議会を設置予定。市民参加呼びかけ取組を推進。
問 知的障害者との交流や発達障害への理解等は発展途上。共生社会の基盤づくりのため子どもにインクルーシブな環境を。
市長 全学校・全学級で特別支援教育推進。ゆずのき学童等で障害の有無にかかわらず共に活動する機会設け、共生社会充実。
問 女性管理職が少なすぎる。クオータ制導入し、副市長に続きロールモデルを増やすべき。
市長 キャリア面談等行い女性管理職の比率を向上。誰もが働きやすい職場環境づくりを推進。
問 女性への支援が目的の女性支援新法制定。基本計画策定に向け継続的支援の仕組み構築を。
市長 男女共同参画推進プランを基本計画に位置づけるよう検討。困難抱える女性の支援継続。
問 LGBTQなどの性的マイノリティへの理解促進し、窓口にレインボーフラッグの設置を。
市長 相談や講座、パートナーシップ宣誓制度活用し生きづらさの解消を図る。職員研修継続。
問 災害関連死防ぐため平時の福祉サービス継続する仕組みを。
市長 有事に備え関係機関と協議重ね在宅避難の支援体制充実。



広域交通問題等
対策特別委員会の審査状況

7年2月17日に開催しました。委員会では東京外かく環状道路に関する現状について、6年6月26日に開催された本特別委員会以降の経過と現状について、都市整備部から報告がありました。

報告に対し委員からは、相談窓口の移転に至った経緯や移転に関する住民の反応について、地盤補修工事の現状と、補修期間を1年延長したことによる今後の見通しについて、入間川ぶんぶん公園付近の市道における工事スケジュールと安全面について、古い家屋を解体する際のアスベストやネズミの対策について質疑があったほか、移転先の相談窓口を活用した意見交換の場の検討について、陥没事故により直接被害を受けた住民だけでなく、周辺住民との意見交換の場を設ける等、双方に公平な対応を求めるなどの意見がありました。

文教委員会
所管事務調査報告

文教委員会では、6年第4回定例会以降、「調布市若者の文化芸術活動及びスポーツ活動の応援に関する条例」の逐条解説を作成するため、調査を行いました。

逐条解説の作成に当たっては、これまでの若者団体への意見聴取の内容や条例に盛り込んだ若者の活動への支援について委員会の思い等を整理しました。7年4月1日の条例施行後、この逐条解説も活用し、これまで以上に若者が自主的に文化芸術活動及びスポーツ活動に取り組めるよう、市と協力して若者の活動の応援に取り組んでまいります。